

深層インタラクション科学による心地よい未来の創出

深層インタラクション総合研究所／深層インタラクションの社会実装

概要

深層インタラクション総合研究所では、「インタラクションを深く知ることによって心地よい未来を創る」というビジョンのもと、深層インタラクションに関する研究開発と社会実装を進めています。ここでは、深層インタラクション研究の概要と、企業連携・社会実装に関する取り組みを紹介します。

特徴

- 深層インタラクション総合研究所では、認知科学的／生物学的／経済学的なインタラクション(特に人・人々を対象に、人と人、人とモノ、人と環境の相互作用)の数理モデルを明らかにしていきます(Human-X-Interactionの解明)。
- 先端研究を進める3つの研究所(インタラクション科学研究所、石黒浩特別研究所、萩田紀博特別研究所)と、社会実装を進めるインタラクション技術バンク、以上の4つの組織から構成されています。

今後の展開

- 深層インタラクションに関する先端研究と社会実装をとともに実施して、人の気持ちを大切にしたい心地よい百寿社会を目指します。

対コロナへの関連

- コロナ禍では人が触れ合う機会が激減しています。このような新しい生活様式における、人のインタラクションに関する数理モデルを明らかにすることで、コロナ禍を避けながらも心地よい社会を模索します。

深層インタラクション総合研究所

先端研究

インタラクション科学研究所

人とコミュニケーションロボット、自動運転車とのインタラクションの研究、視覚・聴覚など人の能力の拡張(Augmented Human)に関する研究開発を進めています。



石黒浩特別研究所

対話型アンドロイド(人酷似型ロボット)などをベースに、人との自然な対話インタラクションの研究開発を進めています。



萩田紀博特別研究所

ネットワークロボットに基づくインタラクション研究の新領域を探索的に研究開発します。

社会実装

インタラクション技術バンク

深層インタラクションに関するこれまでの研究成果を活用し、企業や研究機関とともに、社会実装に繋がる共同研究等を進めています。



協力機関(共同研究・委託研究)

企業・ベンチャー

大学・研究機関